詩集

真ん中を行く

walk in the center

鈴木正吾

どうせ、言い訳のできない一本道なら

遠吠えするのは止めて　真ん中を行こうかと、思った。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

ぼくと宇宙の関係

足元で揺れた
小さな、小さな、花
腰をかがめて口づけた

溝　石ころ　自転車のベル　車。

「いい天気だな」
見上げた空の上には
まだ、空がある

光の速さで　歪む　時間と空間。

ぼくは宇宙の中にいて
万有との間で包含の関係にある。

蹴飛ばした石ころが
ドブの中に転げ落ちた

明日に向かう帰り道。
転げ落ちた石ころ。

目の前の、ほんの些細な現実を
つかみ損ねたぼくは、笑い
鼻で笑った明日を憂う。

もしも
言われている通りに宇宙が巨大なら
ぼくの過去と未来を足しても　追いつけない。

あまりにも無限だから
眺めることさえできないから
宇宙の向こうの見えない先を
思い浮かべては可笑しくなって　笑ってしまう。

ぼくと宇宙の関係は
そんなぼくの、
何も見えないのに、
分からないのに、
笑ってしまうような
未来に、、、似ている。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

カチッと、はまらない

ゆるく、あまい、舟こぎのリズム
効き過ぎの暖房の、昼過ぎの満腹な感じ。
差し込まれる予定外のカード
いつも急ぎの、無茶振りに近い退屈な仕事。
朝・昼・晩ずっと
ぼんやりぼやけて

毎日、毎日
行って帰って疲れて眠るだけ。
携帯電話の充電器も、
カチッと、はまらない。

間延びして、垂れ下がった僕のイメージ
相変わらずで型通りの　空虚な暮らし。
力を込めて　強く叩いても
ぜんぜん響かない自分に嫌気がさして
ゆるく、あま〜く
また、繰り返す。

確かに動く。　けど、
特に問題はない。　けど、

なんだか、ゆるい。
パタパタとなびいて　飛んでいきそうな
フラフラと流されて　落ちてしまいそうな

僕の中の
大事なパーツの一つが
カチッと、はまらない。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

人がいない所へ行こう。

間違い探しの途中で気付いた
間違いだらけ毎日

本当と嘘の絶妙なバランスで
なんとかやっている

ふと
見上げた空が
驚くほど青かった。

プカプカと
暢気な風が
楽しそうだと思った。

人がいない所へ行こう。
そうだ、そうしよう。

暑けりゃ　素っ裸になって
水たまりでは　飛び跳ねてやる

大声で笑って　怒鳴って　そうやって
寂しい夜には　しくしく泣いてやる

そんな風にしながら
誰もいないところで

ほんとの間違いを見つけたい。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

スイスイスイ
３回掻いで顔を出す

水面から見上げる空が好き。

モクキンドー
腕と足がバラバラ動いて

筋肉痛で寝ころぶ日曜日

プールサイドにいると焦る。

不細工でも　不器用でも
必死に「いきつぎ」しながら
泳いでいたいと思う、ずっと。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

方向と歩幅とリズム

自分に出来る事と
自分がやることの境界線は
つまり
簡単な意志の問題で
動き出せば始まる

頭の中や胸の奥で
抱いてた昨日の行動も
ほら、
誰かに手をさしのべ
誰からか慈悲を得る

今
その一歩を踏み出せば
また
違った世界の扉が開く

そう、
簡単な事なんだよ
君にも僕にも出来るはず

目の前の信号が青に変われば
迷わず進めばいい
何かに追われて
周りを見失っていても

―何処までも続く大空に両手を広げて叫んでみる―

そんなイメージで
自分を塗り替えていくだけ

今
その一歩を踏み出せば
これからを大きく拡げていく

もう、
次に向かう方向も歩幅もリズムも
見えてくるはず

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

ラッシュ

煙突の上で回転する指標板
次に向かうのは「あっち」だと指し示す
誰も疑うことなく　ラッシュ
棒の振られる方へ　ラッシュ
ラッシュ　そう、豊かな方へ。

朝から晩まで　あるだけ使って
リズミカルにクレーンが回転する
重機が打つ金属音
その横で高層ビルが霞んでる

一列に並んで見上げるうちに
迷いや疑いが消えていく……から
ラッシュ　みんなで一緒に　豊かな方へ。

「必ず」という絶対を疑う者は
またお前かと噂され
違う違うと首を振れば……
赤いラインで立たされる。

だから一緒に　ラッシュ
難しいことは考えずに
ただ　棒の振られる方へ
ラッシュ　そう、豊かな方へ？

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

向かい風、後ろに祓う

悔しくて　悔しくて　悔しいのに
ぐっすり眠れる、ぼくは何だ
前は違った　昔はもっと、って
また、これが一番、嫌い
楽しく笑って　嬉しいはずなのに
とても重く　とにかく弱い

カーテンの間２ミリからの光
か細いけど、明るい昼の街

外に出て、
淡い午後の中　ぼくは思う
空気はこんなにも濃い乎
言われているほど暑くないナ
それにしても、風が強いじゃないか！と
向かい風。
座っているのに　倒れそうだ
ふ～、とついた溜息が遠くへ
全然違う、逃避した何処かへ
また、悔しくて　悔しくて……
やっぱり
悔しいぞ。
ぼくは、立って尻をはらう
溜息も　砂埃も　後ろに祓って
向かい風の中、ぼくは立つ。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

万華鏡

それぞれの紙片が
過去と現在と未来の三面鏡の間で舞う

人生・・・一度きり
なら、綺麗に回してみよう

・・・と、腰を振る

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

オーバー・フェンス

雲一つない真っ青な空を
白いボールが弧を描きながら
フェンスの向こうへ飛んでいく

囲まれた空間から飛び出して
羽を広げたボールが自由に転がり
未知の道をただ進んで行く

おりこうな僕たちはいつも
あれもこれもダメなことで囲み
限られた範囲で道を決めてる

オーバーフェンスの未知の世界へ
思い切って飛び出してみようか？

頭の中だけで理解している世界
困難を避ける為の丸暗記な知恵
〝両手を広げても飛べない〟と悟る
やりたい事よりやれる事をして
いつも安全エリアで退屈してる
夢は寝ている時にだけ見ればいい、と

オーバーフェンスの未知の世界が
頭の中だけで造り上げられる
そしていつか、
「そんなもんだよ」と言い放つ

オーバーフェンスの未知の世界へ
思い切って飛び出してみようよ

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

愛を込めて

星が星として
光っていられるうちに

月がいまのまま
丸い姿であるうちに

ぼくらの二酸化炭素を
正常で完璧な生態系を

変わらず教科書で伝えたい。
学び取る普遍的な公式にしたい。

満ちては欠け
偏った貧と富で
球体のバランスは……
ぼくらの地球は、
もはや限界に喘いでいるらしい

と、そんな話にうんざりしている。

うんざりしながらもマグロが欲しい
うんざりしながらも伐採して儲けたい
うんざりしながらも…余所見している

ぼくがぼくとして
存在していられるうちは

彼女が　家族が
周りの人たちが

このまま変わることなく、明日に向かえ
へこたれて座り込む大地には温度を
ため息がつけるほどの濃厚な空気を
……守りたい

ぼくらは、そろそろ
この当たり前にある地球に
愛を込めてみるべきじゃないかとおもう。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

そういう風にできている

色々、難しく考えたなら
悲しくて　悲しくて　夜も眠れなくて
心配なんてするもんじゃない
うまくいく　うまくいく

そういう風にできている

手拍子にはじかれて　幸せになっていく
歩く速さも乗せられて　ドンドン速くなる

ららら
心で流れる歌も　今日は最高にグッド
昨日からの追い風に乗って熱くなってる
誰かが遠くで奏でる　幸せなリズム
口笛拭いて、家に帰ろう

あれもこれも混ぜ返したなら
苦しくて　悔しくて　笑ってもいられない
一度ぜんぶ　忘れてしまおう
いつか来る　きっと来る

そういう風に出来ている

探し求めて追いかけてるモノは
突然　はじかれるようにやってくる

ららら
考え方次第では　それなりにグッド
だから湯船につかって　待ってればいい
遠くで誰かの　乾いた笑声
今日はとにかく、ゆっくり寝よう、っと。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

ぐるぐるまわる

その場で10回
ぐるぐるまわる

竜巻のようなイメージ
このまま　昇っていきたいから

だけど現実は　まるでドリル
地中へと沈んでいる

下っていく途中で出会う　もの
いいじゃないか

結局　みんな　新しい
昇った先で見えるのと　同じだ

だから　もいっかい
ぐるぐるまわる

下がるなら下がるで　どんどん行こう

地球は丸い　から　やり直せる

このまま地下を進んだ反対側
サンパウロ辺りの空で
僕は昇る　ハリケーンほどの速度で

ぐるぐるまわる、のだ

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

しない

比べず、競わず、動き回らず、
ただここに居て、祈るように

食す。
眠る。
考える。

十字架だろうが、
菩提樹だろうが、
モスクだろうが、

雲の上の宇宙の、
さらにその向こうの銀河の果てで

見えるべきものを
こうして想像する。

Do Nothing

有ることの証明も、
無いことの嘆きも、
奢りも裏切りも虚無な満足感も……

しない。
あるままに、流れるままに。

与えられた身体と名前で
与えられた地球の上で

このまま穏やかな時を　ただ
食し、眠り、考える。

それが難しいことだと気付けたことで
本当の意味が分かるのだと、

小さな声は教えてくれた。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

peace

ぼくらは知らない。
そうじゃない、っていう日々を。

偶然にも僕らは、平和だった。

マクロに横たわり、
それをぼんやり眺めている。

空がそうであるように・・・。

一つひとつ集めたピースは、
出来上がってみると、何となくピースで、
「平和」ってことを、ほんとは知らない。

だけど知っている。
それが、単なる偶然だということを。

テレビが言う、新聞が謳う、学者が問う。
踏みしめた異国の大地が軋むように訴える。
戦争。それを終えた僕らは、
実は半分しか平和じゃないことを、忘れている。
ただ、傍観している。

Piece of Peace.
目の前の明日。その、次ぎに待ってる未来。

空がそうであるように、
穴をあけるようなこと、なく
いつまでも包み込む平和でありたい。

ぼくらは知らない。
そうじゃない、っていう日々を。

ずっと、そうでありたい。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

すべてはスクリーンの中の出来事

おもいきり　握りつぶす
掌に転がした　空気　空虚

噛みしめて　鼓動する
内から外へと　吐き　漏れる

人気のない街　泣いてる君
「誰か早く気付けよ」と
僕は　遠くで　見守ってる、だけ
すべてはスクリーンの中の出来事

風が揺らす　君の髪と裾
僕にもそっと　同じ風があたる

だからってどうしろと言う？
ここから飛んで行って救え、と？

また僕は

おもいきり　握りつぶす
何もない　自分　頭の中

泣いてる君だけ　街の隅で淀み
僕はその向こうにある月を見る

ただ　遠くの　光だけを頼りに
見て見ぬふり　現実逃避の先

そう、
これはスクリーンの中の出来事なんだ

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

骨格

大事なモノの出し入れで
ぼくらは生きている訳じゃない

生きていくための足し引きが
結局、大事なモノを決めているんだ

太ったり、痩せたりしながら
汗をかいている

伸びたり、切ったりしながら
必死になっている

今、残っているモノが「ぼく」なんだ

それが
あの頃のぼくと違うと言う理由
これからのぼくが変わるだろう仕組み

ミエルモノ　ダケガ
コノ　ボクデアル　シルシダカラ

それで出来上がるぐらいが
人生八十年にはちょうどいいのかも知れない

けど　ぼくは
誰にも見えなくてもいいから
自分だけはちゃんと見ていたい

増えたり減ったりしないモノを
チャラチャラ飾らないモノを

ツマリ　コッカク　ヲ
ボクデアル　シルシニ　シタイ

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

祈るしかないの？
祈るだけなの？

祈ってもいないの？
信じているのに。

かなう訳じゃないの？
かなえられないの？
かなえないの？

誰に聞いているの？

どうなるの？

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

両手を合わせて

有るか、無いか。
晴れか、雨か。
右か、左か。
男か、女か。

神は、誰だ？
あんたは　どっちだ？

手とか目とか
口とか胃とか
足りないのはどこだ？
ぼくの「何」が欲しい？

過不足をならして
満遍なく分配する夢の世界は、

結局、金か？

北も南も
壁をはさんで東も西も
世界地図はにらみ合い
早い者勝ちのシステムで
飛び交っている

雨、のち、爆弾。
今、荒れ模様。

丈夫な傘の下にいて
水たまりに映した「ぼく」を見る。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

ワールド

僕の世界が　たまたま　あおい。
君の世界……はどう？

交わり　潰され　こんがらがって
それでも　あおい地球の中に
僕の世界は　ある。

尖って　否定して　諦めたように
いつだって　不思議なリズムで
君、は世界を閉じる。

ねぇ、君の世界じゃ　僕はどう？

こっち来い　とは言わない
今から行くよ　とも言えない

ただ、僕は僕で
そして、君は君で
それぞれ別々

君の世界に生きる僕と
僕の世界にいる君とで

こんな風にして
今までと変わることもなく……

そうやって　一緒に。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

おぉ、ヨーロッパ

静かな午後はベランダで
風船でも飛ばして…遊んでみたい

かつて鉄だったカーテンが風に揺れ
パイプや　船や　トラックが
満載にして　行き来する

詰め込まれたモノの唄
抑圧された自由への幻想
満載にして　行き来する

道と道を交えた先は
迷子のようにワラうばかり

広がれば広がるほど
浮かび上がる　ヨーロッパ・ライン

それは
薄れゆくなかで
さらに固執するボーダー

サイレントなサイレンが
また、頭の中で鳴り響く

続きを知るのが怖いから
続きで居るのが辛いから

夢は夢で終わらせたい。

静かな午後にベランダで
右向きに流れる風船を見ながら
ぼくは想う。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

It’s so beautiful

何も埋まってない大地
警報の鳴らない静かな夜
程良く降り豊富に照る
視界を遮らない風通る場所

一本道がどこまでも続き
ありのままの姿で木々は踊る
原色の夕日が遠くで沈めば
ゆっくりと一日が終わっていく

頭の先からつま先まで
一直線に繋がって、一瞬止まる
口を開けたまま、じっと見ては
小さな声で、そっと呟く、It’s so beautiful

取れたての果実を積んだ車が
砂埃を巻き上げながら過ぎる
生きるための糧を売っては
生まれるための金を集める
子供達は真っ白いパレット
明日の色を未来の水で薄めては
淡い希望を顔に焼き付けながら
大きく今日の出来事を描く
目に焼き付いた景色と心が
ダイレクトに繋がって、強く刻む
口を開けたまま、じっと見ては
小さな声で、そっと呟く、It’s so beautiful

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

覚えたての罵りで世界を見る

生れ落ちた場所と　色と　所属で心を染め
愛したり　愛されたり　撫でられたり　叩かれたり
時には　泣くほど楽しい日曜の午後
或いは　寂しい金曜の夜に　思いつく陰謀

僕らはいつだって
覚えたての罵りで世界を見るんだ

自由だ、自由だ、と大騒ぎした時間が過ぎれば
義務と責任の嵐が強烈な向かい風となる
それを避ける為に掘るシェルター
含み笑いと一緒に集めたブラック・マネーが壁になる

誰だって
覚えたての偽りで自分を飾っていくのか？

寝て起きるたびに増えていく敵
ここも　そこも　あそこも　あっちも
悪いのは「奴」らだと周りで行進する
だから僕も一緒になって
そうだ、そうだ、と拳をふっている
覚えたてで　意味も分からないけど
「奴」に向かって　「世界」に向かって
罵りの言葉と行進を　今日も続けている

僕らは・・・
生れ落ちた場所と　色と　所属で
「正義」と「神」を与えられ
そして、毎日のように「奴」らを罵る言葉を教わる
そしたら繰り返すんだ
覚えたての引き金を引きながら・・・

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

方法はいくつもあった。
ああすれば、こうもできた、と
考え出すと次々浮かぶIf
結局
僕は、この手で
だから、と理由をつけて
僕はこの手で握りしめて
そのまま握りつぶすように失った。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

２００１

凍った世界から鋭い声が響く
ステレオタイプの正義が壊れる
なし崩しで建て増した栄光が
ひねくれ者達によって消される
今まで多くの事に蓋をして
臭わないから目をそらしていた
暖炉のそばで　悲劇に泣いたり
実感のまいまま　同情する事も覚えた
必死に楽しく笑おうとする人たちに流れる唄は
この先をどう変えていけばいいと言ってるのか

繰り返し、繰り返し、繰り返し。

平和のために殺すと指導者は言う
世界のためにスイッチを押す者がいる
人ごとのようにばらまかれた映像が
エンターテイナーによって色づけされる
何も分からない少年に銃を渡す
神のためだと背中を押す者がいる
怒りの矛先を巧みに変えながら
得するカードばかりを集めようとする
理想平等の世界の隅で
穴に隠れた破戒者が笑う
終わりの見えない不自由を
理不尽にかき混ぜては
また、平和のために殺すと指導者は言う

繰り返し、繰り返し、繰り返し。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

X situation

想像する　創造の世界

隣に迫り来る　明日の未来は
僕の中で　ミックスされ

数珠のように繋がった現実が
音を立てる

とても
耳障りなニュースに変えながら

今は明日へ
明日の今へ

焦燥と　恐怖と　無の快楽の世界へ
平坦な一本道に見せる

遠くから　爆弾を背負い
同じ明日を　共有しようと　自爆する

それに恐れた僕は
小声で

ヘルプ・ミー

無力に叫ぶんだ

ただ　そんな状況が　僕にはみえる

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

TRAVEL MAN

にっこり笑う少女が僕を
少しだけ幸せにした朝、
無いはずの右腕をこちらに伸ばして
「マネー、マネー」と言ってる気がした。

バニラを掬うスプーンから
はみ出した顔を見た婦人は、
今朝もスニーカーを圧迫しながら
リバーサイドをウォーキングしている。

要らないから捨てるモノ、を拾う者。
そうして繋がる人と人。

I Know
この世界には隅々まで花が咲き、死が横たわる
I just travel around there
ただ、見て、見ぬ、振り、の僕はTRAVEL MAN

軒下でベトナム･コーヒー
紙の歴史を実感する夕暮れ、
老人はゆっくりと噛みしめながら
だから殺してやりたい、と、笑った。

まだ終わっちゃいないぞと
擦れながらキリキリ吐く言葉、
若者はこれから始めるつもりだと構え
また、同じ事を繰り返そうとしていた。

待ち人は現れぬまま歳をとり、そして今
一目会いたかったと想う。

You know
誰かが笑う側には泣く人がいて、上と下で四角
We've much tears behind pera-pera smile
まったく別の所にいる気がして、僕は…

Not still over. I realize more and more
ぐるぐると、空振りしながら回る、僕はTRAVEL MAN

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

ぐずぐずしている

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

私はいつも　いつも決まって間違えている
結果がいつも　いつも限りなく悪いからだ
言ってしまったことを悔いてばかりいる
言わないまでも態度に出たかとまた悔いる

だから私は、一秒でも早くやり直そうとする
目の前の真っ赤なリンゴに飛びついて、そう
私はまた　またいつものように間違えてしまう
結果がまた　またいつものように悪いからだ

私は　臆病だ
臆病な程に大胆だ

だから愚かなのだと自覚している
だけど直せないのが私の性なのか
そんな人生だと　ここに来て思い知らされている
こんなもんでも　例えば綺麗かなと仮定してみて
ぐずぐず　ぐずぐず　生きている。
へらへら　へらへら　泣いている。
この先の　先の先の　もっと未来が
まだまだ　まだまだ　待ち構えている
のに、
こんな私は　ぐずぐず　している。
ぐずぐずしている

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

カラカラ、カラリ

卒業証書を丸めてのぞき込んだ世界が
残された未来の様で　ため息が出た　あの日

真っ白いキャンバスに　好き勝手散りばめた
カラフルな未来は「夢」なんだと　微笑んでいる

通過するためのパスを集め
飛び越えるための靴を買った

ただ、得るための毎日に四苦八苦で
その次がイメージできずにいた

カラカラ　カラリ　そんな自分

暖かそうな所だったので　途中下車して暮らした
行き過ぎるバスを見送っては　飛び乗れないまま・・・・

何も起こらない事でホッとして
簡単に早く終わる手段を、その方法を・・・

目指してたモノが霞んでいく朝に
元気に挨拶している自分の嘘。

目が覚めた　普通の朝
鳥が鳴いてる　いつもの時間
考え抜いて出した答えが
ゴー

カラカラ　カラリ　いまの自分
明日は　つまり　違う自分

だとしても結局は　この自分

カラリ　カラリとドアが開く。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

ブーゲンビリアの花が咲く

グローバルと　ローカルの　狭間
揺れながら　ブーゲンビリアの花が咲く
うす紫色の　花が咲く　花が咲く
どっちつかずの曖昧の空の下
変わらないで欲しい、とは言い切れない、気持ち。
ぼくは
匂いの無いこの花の香りに
飽き飽きしながら　大きなあくびをする
黙って咲いて　知らない間に散る

ぼくの家の真ん中で
ブーゲンビリアの花が咲く
ぼくは家の隅っこで
無いはずのその花の匂いを嗅ぐ
……、ふりをしている。
分かるコトと　分からないの　違い
本当の所は　白けた顔でうす紫色の花が揺れる
少し青くなって　花は揺れ　怒り狂う

ぼくは自転車にのって白い道を行き
帰りに買うはずの大きな勇気を　諦める

諦めたところで何も変わらず
昨日の続きから今日が始まる
あの花が真っ赤になって喜ぶようには……
なれない自分が、今は歯がゆくて

だけど、
知らない間に散るあの花の
最後までには、きっと、そう絶対。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

僥倖

それは、例えば生まれてきたこと。
日本という国に
そして父と母の間に
ここに、こうしていること

それを天文学的な
あるいは宗教的な
とにかく普段とは異なる考え方で言うと
偶然の幸福に他ならないのかもしれない

ラッキーってやつだ。

じゃんけんに勝った。
いつもより多かった。
なんとなくウキウキする。
おまけが当った。

そんなちっぽけなラッキーで
覆いかぶさっていた暗い不幸が忘れられる
一体、どうなってるんだろう、僕らの頭は？

考えてみれば、
おそろしく合理的に出来ている僕ら人間
だからきっと
この御気楽に見える習性も、欠かすことの出来ない
なくてはならないひとつの・・・何というか
・・・やっぱり御気楽なだけか

でも、だからこそ、
今日もこんなに平然と暮らす事ができる

僥倖としかいいようのない
そうとしか考えられない偶然で

ちょっとずつ幸せな気分に自分を染めながら
全体的にバランスよく進んでいる

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

泣く

小川と風と鳴き声と
木々の擦れ合う心地よい揺れ

その夜
「音」を集めるばかりの男が
ひとりで、泣いた。

なんで泣くの？
なんで泣くの？

一度目は他人が
二度目は自分できいてみたけど、

男は何も言わず
ただ、泣いた。

集めた「音」がテープレコーダーから
さわやかに満たす部屋の中

男は、声を出して泣いた。

（なんで泣くの？）

ぼくは、そんな言葉を飲み込んで
そういう夜もあるんだと
思った。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

今現在

君は確かに「5」出来る
「3」の僕には羨ましい
けど、「10」を目指す君は
今現在、「3」すらしていない
それを知って愚痴ってる
それを認めて、なおしない
「3」以下の君がかき上げた髪から
とても素敵な匂いがした

もったいないな、と僕は思う

僕は君の「10」の未来より
今現在の「5」の姿が見たい

「頑張る」が口癖になって
だから駄目だと言った君

側に居てくれると嬉しいけど
それほどに寂しいんだと笑った君

両手でくしゃくしゃにした髪から
また素敵な匂いがした

素敵な匂いがするよ君は
きっと大丈夫だよ

うん、大丈夫だよ

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

雨は止んだ

雨は止んだ。だから、
僕は玄関の扉を開く

靴ひもを結んで見上げたら
東の空が少しだけ明るい

それが意味するところなんて考えない
この先の善し悪しなんて気にしない

ただ、雨が止んだから
僕は飛び出すんだ、よ

それだけだよ

小さい雨が、またひとつ。
あれ、止んでなかったのか

ちらほらと
傘が開いて回転してる
屋根の場所まで
小走りしてはヒラヒラしてる

頬にあたる小雨
だけど僕は行く、よ
飛び出したんだから
戻ったりしない

そう、もう扉を開けたんだ
東の空は、ほら明るいんだ

雨は止んだ、と頬を拭い
雨の中を　僕は行く。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

見上げた空には満天の星
輝きながら僕に勇気をくれる

「でっかいなぁ」

見上げたまま
後ろに倒れて寝転んだ

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

Big Sun

僕を見て もっと見て
目の前にいる僕の言葉を聞いて
確かに動いてる僕の心臓を感じて

上塗りされてきたイメージや印象を
造り上げられた一方的な背景を
全部白紙に戻して、さぁ
僕を見て、聞いて、感じて

手をつなごう。
同じ笑顔で大空を仰ごう
でっかい太陽に挨拶すれば
きっとまだやり直しが効くはず

君を見よう もっと見よう
目の前にいる君の温度を感じよう
何かに繋がる感情を分かち合おう

隠し通されてきた過去の矛盾や絶望も
ねじ曲げられた都合の良い真実も
全部さらけ出して、そう
君を見よう、感じよう、分かち合おう

話をしよう。
同じ空間で歴史を語ろう
でっかい太陽に瞬きすれば
きっとこれからが見えてくるはず

Under the BIG SUN
ここで生きよう
一番大切な「これから」のために
手をつなごう

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

空

瓦礫の中から家族の写真
一緒に笑ってた・・・母は・・・
もういない　雲の上

四角く尖った心でいつも
素直になれなくて・・・ごめんね

何もかも遅すぎた　何もかもなくなってしまった
けれど
心の底から母に話しかけてみる・・・

空は笑ってる　僕は泣いてるのに
空は青空。あの時と同じ青い空・・・

ふと何かがはじけるように寂しくなる
一緒に笑ってた・・・あの時間は・・・
もう戻らない、戻りたい

誰かに何かを求めてみても
どこかの風に吹かれるだけで

変わらぬ大きさと　優しさに包まれていること
それを
青空見上げて気づいた今は・・・

空（ハハ）が笑ってる　僕も笑ってみる
空（ハハ）は青空。あの時と同じ優しい空・・・

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

そして、行くんだろう

きっと僕らは
いつも何かを無くし
そして、行くんだろう
どこか遠い街へ

ずっとこの先に降る
雨はまだ下りずに
カラカラに乾いた大地が・・・割れる

それでも僕らは
全てを受け入れて
そして、行くんだろう
落としたモノを拾いに

拾いあげてから、また
別の名前を付けては

チャラチャラと鳴らしながら・・・流行る

始まりと終わりに　決まって落ちる
温度と灯りと　休息の為の静寂

きっと僕らは
同じ道を飽きる事なく
こうして、行くんだろう
新しいと信じた
未来に・・・

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

ハンバーガー・ポテト・コーク

僕らは無意識で白く
空は無頓着で　ただただ　青かった

出来る出来ないのラインなんて
明日にはすっかり様変わりして
ずっと「先」だと思ってた

決めなくても、焦らなくても、
まだ間に合うからと笑ってた

ひと口かじったハンバーガー
箱から飛び出たスパイシーポテト
そして、流し込んだコークの日々

僕らは　それがそうだとも知らず
セイシュン　ダッタンダ
カロリー過多で刺激的な
それでいて　やっぱり爽やかな時間

明日なんて
ずっと先だと思ってた

ウマカッタ　タノシカッタ　ジテンシャデカエッタ

ずっと過去だと認めつつ
もう一度かじってみたいな、と思う。

スパイシーでスカッとする
そんな時間……

無理だな、と自嘲する。
無駄だな、と自覚する。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

とびはねる

虎が跳び渡るという峡谷を想像した。
馬が飛び跳ねて雲を食べる夢を見た。
行き場を失った最後の砦。

人は人である限り、
そんなことは出来ないという、
“幻想にとりつかれている”

酒と肉でできた宮殿の奥で身を潜め
神の山に向けて頭を垂れる絶対権利
あるがままがいいと軽やかに詠えば
そんなことは出来ないのだと
また……歴史と伝説を巧みに重ねて

人を超えたヒトを創り
いつかは叶うと夢想することが
“夢を持つことだと勘違いしている”

とびはねる。
骨折する。
入院する。
だから、
とびはねる、
ことすらせずに、
ここにいる。

不正解があるとすれば、
ここにいるばかりの「人」なのかも知れないし
それを強く否定して入院している「人」かも知れない。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

キャンディ・オブ・サン

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

朝陽が眩しい田圃道
夜行バスに揺られて
久しぶりの故郷

きれいだな
やっぱり、大きいな

朝陽が眩しくて僕は
道端に佇んで　眺めるばかり

隣の小さな男の子はランドセル
朝陽に向かって　手を伸ばす

背伸びして　背伸びして
ランドセルの男の子は

いとも簡単に太陽を食べた。
「あ、おいしいな」と笑った。

僕は何なんだ、
「遠い」とか
「大きい」とか
「熱い」とか

眺めるばかりで
手も伸ばさずにいた。

キャンディ・オブ・サン

太陽だって　そう　キャンディさ

本気で欲しいなら
手を伸ばして……

僕は、なのに　何なんだ。

もう本気。
食べるぞ　キャンディ・オブ・サン

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

ニュー

空気、というより風
温度、というより熱

思い切り吸い込んで
歩く、歩く、歩く

何となく新鮮で
どことなく新しい

いつものポロシャツも
いつもより白い気がする

赤信号で立ち止まり
見渡したコンビニの向こう

昨日の雨が流した空は
すごく澄んでいる

無色透明で、真っ新だ。

花屋も、肉屋も、魚屋も
新しい一日

今日、というより今
紺碧の青空の、予感

この始まりが
いつになく、ニュー

この色の空の下
爽快にニューだ

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

ひかり、いっぱい

耳をすまし　聞こえる音が
心地よく染み渡り

ひとりでいること、ほんとは違うこと
気付いたらなぜか　笑み溢れ

いっつも　いつも
ひかり、いっぱい　降り注ぎ
また　笑み溢れ

仰いだ空に向かって　大声でアッハッハ
ひかり、いっぱい　笑み溢れ

来た道眺めて　クネクネ通り
上った分だけ、下ったか？

このまま昇り続けて、夕日に叫んで
星空のもと　家路を急ぐ

静かに　そっと
ひかり、いっぱい　降り注ぎ
満点星の下　笑み溢れ

この島は
いっつも　いつも
ひかり、いっぱい　降り注ぎ
だからまた、笑み溢れ

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

単純にフライ

ボーディング　ランニング　デパーチャー
シートベルト　ノースモーキング　ハイ&ハイ

水平飛行で倒したシート
と、耳鳴りのスピード
ビールとミックスナッツで一眠り

ビールとミックスナッツ
は、回収されて
ビーフorチキン

ビーフはよして、弱虫なチキン

飛んでる気なんて全然しない
けど、
ぼくはフライ

猛スピードで半周して
ガマより高貴に　無感動に　スマイル

単純にフライ　フライ　フライ

せっかくだから
このまま暢気に飛んでいく
誰かが創ったシステムを滑っていく

滑らかに　オートに　果てしなく

ムービー　ミュージック　シー・エヌ・エヌ
ターン・オフして、また眠ろう

このままオートに　単純に……

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

頭に描いたフジヤマ

平穏　安穏　UNKNOWN
知らないだけの何かに
まるで、晴天乱気流
綺麗すぎた　雲一つない　先行きの
その、先

計れるものだけで予測して
だから安心だと無防備でいたら
転んで　すりむいた

ひりひりと湯船で眺めた
ニッポンイチノフジノヤマ

ふう　らい　ぼう
朝陽より早い一日の終わり
それは、まさかの天気雨
折り畳んだままの傘に似て
ずっと、隅

計り知れない何かを潜め
広げないまま太陽ばかり見てたら
熱が出て　風邪ひいた

濡れた前髪から垂れた雫
湯船で輪となり広がった

目を閉じる。
頭に描いたフジヤマの
計ってしまえば平凡な
そんな高さを見上げてる

分かってしまえば退屈な
風呂屋の壁画を鼻で笑う
笑いながら　圧倒される
計ることのできない美しさに

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

邪魔になるけど　なきゃ困る時がある
そんなモノを一杯持ってる君がいないと
ほんとは　困り果てて途方に暮れる僕がいる

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

それは目の前にある

ここに無いモノが
どこかに有るのでしょうか？
仮にどこかに在るとしたら
ほんとにここにはないのでしょうか？

「おはよう。雨だけど、、、一日、がんばろう、ね」

ぼくは
ようやく
気付きました。

探して探して疲れて眠って起きた雨の朝に。
傘を忘れて靴が濡れ　気持ちが萎えた1番ホームで。

ぼくは
ようやく
気付きました。

ここにないものはどこにもないし
どこかにあると思っていたものはここにある、と。

漠然の靄を振り払うと
君からのメールを読み直していると、

それは目の前にあって
そう、君は…目の前にいた。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

感じる

その、ことば
ぼくから言えたらいいのに。

またうつむいて
４時の方向から　こっちを見てる？

「ただ笑ってるだけじゃ、幸せになれない」

そんな君の　意味が少しだけ分かる

あともう少しで駅。
百円ショップなんて
ほんとは寄りたくないんだろうけど
ほら、また今夜も
このままバイバイじゃ　嫌だから？

親指のサックをぐねらせて君、
…笑ってる。

笑ってる、んだよね？　ぼくも。

バイバイ。
２時の方向に、君。
バックから財布を取り出そうとしてる
君の　背中がいう

そのことばは　ぼくから
ぼくから言うよ

いま、ものすごく　感じる。
ぼくも、……

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

別々の花が咲く

僕にはこの花の名前が分からない
オレンジ色で小さく とても綺麗なんだけど
なんて言えばいいのか
どう伝えればいいのか

君にどうしても
分かって欲しいんだけど……

花に詳しい君にも分からないのは
目の前のこの花を 直接見られないから
形や大きさを言っても
花びらの数や匂いを伝えても

ふたりの間で合致しない
だから有耶無耶にして……

僕と君の間に
別々の花が咲いて

創造だけのオレンジ色と
偽りの匂いを嗅いでいる

僕にはこの距離の越え方が分からない
それがとにかく 嫌でしょうがない

すぐにでも行って
見せたいんだけど

それが出来ないほどに、地球は広く
だけど声が届くほどに、僕らは近い

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

魚眼レンズ

左から右へ１８０度
覗き込んだのは　まず過去
知っているはずの自分が全然違う

記憶って……本当にいいかげんだ

その過去の僕が　違う道を通って
「ここ」まで来たら　もっとハッピーなのかな？

右から左へ１８０度
場面は変わって　今度は未来
知らないはずの自分なのに同じ顔だ

同じように……あくびしては転がってる

このまま未来は　現在の積み重ねで
「ここ」にいるのと代わり映えしないのかな？

今より早く走りたいのに
月に行ってのんびりしたいのに
信じられないほどの便利さで
もっともっと楽したいのに

「ここ」にいるのと代わり映えしないのかな？

目の前で膨張する君の顔
約束の５分前
おっと現在、今の君だ

「ここ」にいるのも　確かにいいかな。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

続き

終わる安堵の隅で
くすぶっていた寂しさ
だから
続きそうな何かを掴んで
クルクル回しながら
クルクルとただ……

君の中だけのメロディ
僕がロずさんだから
笑った
かすれて上手く出せないけど
やさしくやさしく撫でながら
やさしくやさしく……

続きを繋いで綴っていこう
ありきたりだけど
二人には特別な、続き。

ここまで＋これからは幸せ？
だとしたら今だけが不幸せ？
続くとしたら？　繋ぐとしたら？

やっと泣きやんだ　君。

君と僕の続き
泣きやんだ今の続き
かすれた声で唄う今の
かすれてしまいそうな続き

やさしく撫でつつ　やさしく掴んで
この続きを繋いで綴っていこう？

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

紫

流れゆく川を人生に例えて
淡々と謳われるメロディを　吹く。
いつまでも、静かに、それでいて、忙しなく、
ぼくは
川沿いの床から　溢れる騒ぎを　眺めた。
ずっと先
咲き誇る花
花まちの匂い。
群青の中を
舞い歩く娘の　淡いピンク。
シャラシャラと　溶け合って、すみれ。
この街の、色。
この長さと　歩幅が　好き

あの時、
きみが　橋の上
ぼくも　橋の上
ふたりで紫。　赤と青。
ぼくらは、夕陽の真下で、ぶつかった。
ザワザワと　青
黙ったままの　赤
薄い光が路地の先で溜まり
暮れたばかりの空は　一面が　紫だった。

とても　とても　深い紫。

湧き出る温もりに　身をもたげ
ぼくはここにある、と知れる場所
故郷。
ぼくの街、ぼくの思い出。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

Uni-（ユニ・バー）

結局
ひとりであり
単一であることの自覚

だからこそ
手を繋ぐことが
大切なのだ

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

ボクノオンド

イン・ディス・ボックス
イン・マイ・ルーム
イン、ミー。

ぼくが　きみに　うつすから
この温度を　閉じこめろ？

ウィズイン・ディス・ライン
出るな、放つな、ただじっと……

アイソレイション。

ここで　ぼくは　ずっと
ぼくの　右手を　さすりつつ
ぼくの　左手を　広げつつ
ぼくが　ぼくのモノで　あるうちに……
ブツブツ吐くんだ、グツグツ煮るんだ。

いつからか
ぼくの部屋になったこの箱の中で
ぼく自身の、上昇する……オンド。
ダメな、影響。

一秒ごとに少しずつ
気化しては　とけて　なくなる……ぼく。

このまま消えてしまうのだろうか。
すべて蒸気と化して
雲のひとつにでもなるなら、
それはそれでいい。

けど、限界？
の、ないぼくは　消える事すら　出来ない。

アイソレイション。

ああ、それ以上に
ボクノオンドが煮えている。
ボクハオンドを放っている。

それでも、消えずに、ここで、
誰もしらない、この箱の中で。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

じぶんの木

たくさんのみずを、ありがとう。
ひかりをいっぱい、ありがとう。

おかげでぼくは、
ぼくの、軸となって
ここに立ててる。

もう、
じゅうぶんにじぶんなんだ。
ここだけのはなし、ほんき。

みえてきたすがたは
ちょっとだけあしたのほうをむいて
ゆられて、ゆれて、
だけど、とまって
まだ、きょうにいる。

たしかに、
きのうもここにいて、
きょうになった。
けど、わからないけど、なんとなくだけど、
きのうとは、
ぜったいに、ちがう。

「僕は、今日が昨日になる前に、
明日が今日になる時間の中に滑り込んだんだ」

だから、
ぜったいに、ちがうとおもっている。

もう、くらべない。
もう、あれこれかぞえて　たりないことをなげいたりしない。
もう、なにかにたよって　しあわせなふりはしない。

ぼくは、もう、
じぶんをじぶんで
じぶんがじぶんと

つまり、ひとつになって
たっているんだ。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

バカみたいに笑って、
強がって右手を挙げた・・・
ぼくの阿保。
サヨナラもちゃんと言えなかった。

夏、帰る。
そんなあやふやな記憶

僕は、ここで
前と変わらずこの場所で
偶然と　奇蹟と　神様と
幸運と　ツキと　意外に普通を

ずっと待ってる

ここに立ってる。
んで、君を待ってる。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

東京

こうして今、
両腕を組んで眺めている景色

目の前の弁当屋
腰掛けてるガードレールの続き
流れる人たちと生ぬるい風

過去の思い出が濃厚なイメージを造り
僕という影が　長く　深く
コンクリートに染み込んでいく

うつむき、目を閉じると
遠い記憶の「あの匂い」がした

それさえも売られる街で
僕はキミを待っている

東京、僕ひとり。

何もかもが、どうも違う
大勢の中の孤独に陥る
喧噪の中の静寂に怯える
来い、来い、来い、と強く願う

それがやがて祈りへと変わり
誘われるままに眠りこけたら
きっと僕は誰かのままに
焦燥と挫折の前に屈するのだろう

行き過ぎる笑い声に溶け込み
同じだと安心するだけの空間へ

だから僕は拒み続け、求め続ける
探しながら、ここで待っている
会えるその日まで

東京、ここでキミを待つ。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

another

いつだって
僕らは「一つしかないモノ」の犠牲者だ
その基準で振り分けられ、泣き、笑い
時々はふてくされて明日さえ放棄してしまう
だからって
追い求めることは止められないんだけど
僕だって
いつかは出会えるはずだと楽観主義で
悲観的な君のアドバイスが、ついつい、面倒臭い
要するに
まだまだ決まった訳じゃないから、挑むんだ

この、見えない、でっかい、先の先へ

新しいことの全ては
最初は決まって落とされる
また別の価値を創り出し、認められることが
どれだけのパワーと偶然に満ちているか
僕らは歴史の中でそれを知っている
だから
奇跡に近いそんなチャンスを
ここから発しながら待っている
自分の発する全てが
そんな「もう一つ」になるまで
その、日まで。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

ゼロニンゲン

ずーっと、遠くを目指している者は
あきれるほどのん気に努力できる

喉が渇いたと声を嗄らしている人の横を
スズメの涙で潤しながら追い越していける

ずーっと、遠くを見ている人間は
乗り遅れた船に手を振る事さえできる

いってらっしゃ〜い、と笑顔で
時にはお土産なんかを頼みながら

ずーっと、遠くを目指している者は
変わらない色で協調しながら存在できる

キョロキョロカメレオンの尻尾の方で
ない物ねだりの余所見の途中で

ずーっと、遠くにあるから
目指してるものも、
行きたい場所も、
なりたい自分も

だから、
一歩や二歩じゃ、焦らない
ただテクテク歩いていくだけ
同じテンポで、変わる事のないリズムで
ずーっと、遠くを目指しながら

濡れたって乾くから、雨を憂いて嘆かない
涼しいと感じる心のおかげで、強風も厭わない

砂風嵐、渦を巻いて天に伸びるなら
会わせて欲しい人がいると、懇願する

何も持たないゼロ人間
周りではマイナス棒が歩いているとバカにする

なら、それでもいい、
引っ付いてくるのはみんなプラスなんだから

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

十年遅れ

あの時の　あの意味が　やっと分かりました。
あの日の　あの言葉は　ずっと覚えています。
あなたの放った言葉が
やっと
僕に届きました。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

イメージ通りに明日を目指せ！

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

青年よ学べ！　貪欲に取得しろ！

その昔、荒野を目指したという
その昔、主張し闘争したという
その昔、夢を本気で抱いていたと
その後、いつかそれは叶うものだと

そうやって、生きていたと聞く

青年よ、今を生きるなんて
本当の意味が実感できるか
そんな時間的な感覚はむしろなく
未来も過去も創られた世界の、エンターテイメントだ
そして、今さえ見えずに浪費する

青年を学べ！　触れてその冷たさを実感しろ！

欲しいモノばかり並べる前に
自分が欲しいモノそのものになろうと磨け

例えばいつか、それが実現したときに
全てを吐いてのんびりすればいい

青年を黙れ！　言いたいことを行動に起こせ！

青年を青年たれ！　イメージ通りに明日を目指せ！

そして、そんな明日を　その手につかむまで
がんばれ、がんばろう、結果はまだ遠い、
ずっとずっと先に出る、　だから青年よ、俺よ、
がんばれ、がんばれ。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

居場所

地球が加速を始め
僕らは「昨日」の方へと流される
踏ん張ったものだけ
今日の地点に残れるが
それを明日だなんて言えば
笑われるだろうな

静止したような日々
同じリズムで動き続ける日々

同じ笑顔は幸せのままで
悲しい涙はこぼれ落ちずに溜まる

ジメジメした宇宙的絶望。

どうしても超えられない壁がある
何をやっても「これ以上」進めない
そんなエリアで挫折して
落ちてしまう人が多いと聞く

だけど思う。
そこが「居る」場所じゃないか

そこまで来た自分で、自分らしく居られる
そんな
居場所じゃないか　と。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

タ・タ・タ・タ・タン・タン
タッタタン・タン・タン

たとえば　パーカッションで
リズムの良い　始まりの歌

明日もきっと　晴れる気がする

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

旅立つ

小さく飛び跳ねる
少しだけ　「あっち」が見えた
もっと飛ぶ
ぴょんぴょんぴょん
見えそうで見えないけど
なんか、たのしそう
前のめり　でジャンプ
あ、やっぱり楽しそう。

例えばそれは「晴れ」だから
分かりやすく言えば「春」だから

あの子は　旅立つ
今から　旅立つ

「あっち」へ。

あの子が　見えた。
ぴょんぴょんぴょん

手が、ね。
両手の甲が　こっち向き
背中だけの　あの子は
いっちゃった。

ぴょんぴょんぴょん
旅立つ春の晴れの日に
わたし　ここで　飛び跳ねる
前のめり。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

コーヒーハウス

斜めに差した光の下で
揺れる、香りと湯気
スプーン&カップ
ただただ騒がしい
朝が、始まる。

広げた新聞の隅の方で
また誰かの死を報せる
トースト&バター
ただただ忙しい
一日から、逃げる。

ぼくは　窓際の席に座り
フィルター越しで世界を見る

ぜんぶ他人事に思えるから
たぶん他人事で済ませるから

コーヒーハウス・ミュージック
踊るように眠りながら…
今日も、おかわり。

行方知らずのユメを想い
ひとり、夕暮れを飲む
ボーイズ&ガールズ
とにかく楽しそうな
夜が、始まる。

ぼくは　窓際の席を立ち
息を止めて飛び出していく

手をたたき爆笑していた夜の中へ
抱き抱えるように温めていた世界へ

コーヒーハウス・ウィークエンド
振り返りながらぼくは想う
やっぱりキミが…

小さくなったコーヒーハウス
やっぱりキミと…

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

止まった時計の時間

また、止まった時計の時間になった
あれから十二時間、外は、もう暗い
また、止まった時計を直しに行こうと思う
だけど外は暗く、お金もないから明日にする
またまた、止まった時計の時間になった
今日の昼休みに行けるだろうか……
一応かばんの中に放り込んで電車に乗った

止まった時計の時間になった
それで、思い出したんだけど、昼休みは昼寝してた
それで、またまた、
止まった時計をテーブルに置いた
明日、行けたら行こうかな、と思った
止まった時計の時間に起きて
慌てて家を飛び出したら時計のことは忘れてた

止まった時計は止まったままで
だから困ることもないのに、直そうと思う
ずっとテーブルの上で埃をかぶってた時計のこと

またまたまた、また止まった時計の時間になって
明日は休みなので、本当に直そうと思った
一週間ってほんと早いな、とため息がでた

今はもう、動き出した時計は埃をかぶり
時を刻んでるから　特に触ることもない
止まった時計の時間がくると
動いてることが不思議に思えて
修理代を損したような気がする
あのまま、止まってても良かったのに、と思った

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

アイ・アム・ノット・マイン

I AM GOD
But,
I AM NOT MINE

―　僕は神でいて、その僕は僕ではない　―

そこに意味はないと投げ出したら
すぐにまた「僕のもの」になるような気がして
だから、

言いたいことを思っても
想うことは言わない

その方が得なことを
すでに知っている

今日が始まり
司る僕の右手が振り下ろされる

驚くことも意外もない
すべてが決められた通りにあって

すべてをすべてと認識する
狭い世界の中にいる

アイ・アム・ミー
ビコーズ
ユー・コール・ミー、「ユー」

君と僕の距離で、僕がいて
僕の中の僕が神であることを伏せる

隠し通せる間だけが
僕であることの証

きっとそれを知っているのは
僕だけのはずだ

アイ・アム・ゴッド
バット
アイ・アム・ノット・マイン

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

ココロの壁

押しピンがスーッと入るように
とてもありきたりな言葉なのに
身に　しみる　ときが　ある

きっと、それは
空気とか、間とか、角度とか
奇跡に近い偶然のつながりが
そんな「時」を　運んでくるのだろう

開いては閉じ、呼吸するように守る
頑丈そうなココロの壁の　一瞬の隙間

跳ね返し　寄せ付けず　守り抜いた　はずの言葉
それは決まって、中身をグラグラと揺さぶる

僕は、その言葉の前後で、苦悩する
僕は、その言葉の裏側で、思案する
僕は、その言葉の真意に、驚愕する

ココロの壁が、
内から崩れるのではないかと　不安になる

知らないままでよかった事と
知らずに損したモノの違いが

染みこんでは…
夜の　深さを　助長する

眠るために超える壁が姿を消し
まるでこのまま無防備なのかと脅えてしまう

目を閉じて　ただ
その言葉を　排除するために
僕は、尽力する

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

弁

左の心房から心室へと流れ
大動脈となって世界へ羽ばたく夢をみた

怖じ気づいて座り込み
戻りたいと泣いても、後戻りはできない

時というルール
絶対的なオキテ
元々そこにあり
壊すことは不可、だ。

体当たりして　跳ね返された　弁。
無色透明で　宇宙的に　万能な　概念。

それは、必ず明日がくることのように
小川が大河となって、たゆたうように
春夏秋冬の中で、芽生え絶えゆくモノのように

つまりは、血液が循環する程度の最低条件
全ての始まりであり、最初から最後までのこと

弁。
逆流を許さない安定
その上に成り立つ暮らし

だから窮屈なのだとハンマーを振り上げ
抵抗してみせる勇者をヒーローとは呼ばない

なし崩しで失いつつある最後の砦だ。

弁。
躍起になって取り戻そうとしている、今がその時代。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

天気のいい午後は、時々不安だ。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

甘辛く旨い

出会うのは遅かったけど
きっと、これが初めてなのだと
これが、好きってことなのだと
思う。

あたりまえのように笑い
信じられないほど泣ける
ふたりだけの　時間　その中の　自分

そういうことが
全部初めてのことで
だから、きっと　これが　初恋

淡くなく濃く　甘辛く旨い

好きなことは別々で
嫌いなことが同じ。

だから、良い。

出会えた奇跡
近づいた偶然
愛し合った必然

ひとつ残らず真実
本当の恋
特別な初恋

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

わらいじわ

やわらかいものが
やさしいものが
あったかいものが

時間をかけて　ゆっくり　固まる

すりむいたとき
けんかしたとき
なきだしそうになったとき

時間をかけて　ゆっくり　なぐさめてくれる

にっこり　笑いかけてくれる
しなやかに　包み込んでくれる

ずれたメガネ
日向ぼっこ
たて　よこ
くしゃくしゃ、の顔

今日のはなしと明日のこと

時間をかけて　ゆっくり　聞いてくれる

今は写真の中。
あの、顔。わらいじわのまま。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

この　歪んだ空間の中で
迂回するように　曲線で進む君が

本当は一番　速いということを
みんな知らない。

この　歪んだ空間の　無限の広がり

全てが　大きいモノの真ん中へ
引き寄せられる

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.

真ん中を行く

俯瞰したぼくの一生
いくつかの選択と、適当な落し所で
この道を生きている。

凝視した今この瞬間
傷付くことを避けた、凸凹な近道の途中
花も風も香りも全部

それらしく、存在している。

永遠じゃないこの道の
それらしい毎日で、ぼくも存在する。

何を選んでも、
何処を進んでも
どうせ、
言い訳のできない一本道なら
遠吠えするのを止めて
真ん中を行こうかと、思った。

決意したぼくの五分後
何も変わらず、凸凹なままかも知れない
花も風も香りも全部……

だけど、
ぼくは真ん中を行く。

渦の中心で花を摘み、
風に乗せて香りを飛ばしてみせる。

永遠じゃない、この道で
その、真ん中で
ぼくが存在しようと、決めた。

All right SHOGO SUZUKI（鈴木正吾） reserved.